

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	15-134	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Sociocultural Influences on Gambling and Alcohol Use Among Native Americans in the United States アメリカ先住民のギャンブルと飲酒に影響を及ぼす社会文化的要因		
執筆者		
Patterson-Silver Wolf Adelv Unegv Waya DA, Welte JW, Barnes GM, Tidwell MC, Spicer P.		
掲載誌		
J Gambl Stud. 2015 Dec;31(4):1387-404. doi: 10.1007/s10899-014-9512-z.		
キーワード		PMID
ギャンブル、飲酒、アメリカ先住民、アメリカ合衆国		25408467
要 旨		
目的： 社会人口統計学的要因を考慮しながら、アメリカ先住民の文化とギャンブル依存症やアルコール中毒についての関連を定量的に調査した研究はない。そこで、アメリカ先住民のギャンブル依存症とアルコール中毒のパターン及びそれらの関連を調査するとともに、伝統的なアメリカ先住民の文化やアイデンティティがギャンブル依存症とアルコール中毒の防御因子であるという仮説を検証した。		
方法： 2011-2013年の電話調査 The Survey of Native American Gambling (SONAG) 及び the national Survey of Gambling in the US (SOGUS2) のデータを用いて、18歳以上のアメリカ先住民 415人を対象に解析した。ギャンブル依存症およびアルコール中毒はインタビューにより情報を得た。		
結果： アメリカ先住民のギャンブルをする者の割合は80%であり、非アメリカ先住民(77%)に匹敵する結果であったが、依存者の割合は非アメリカ先住民よりも2倍多かった(18 vs. 8%)。また、アメリカ先住民はアメリカ人全体の集団よりも飲酒者の割合が少ないが(47 vs. 68%)、アルコール中毒者の割合は多いことが明らかとなった(5.5 vs. 4.3%)。ロジスティック回帰分析では、社会経済的地位の低さがギャンブル依存症のオッズ比の増加と有意に関連していた。また、仮説に反しアメリカ先住民の文化やアイデンティティを強く持つほどギャンブル依存症のオッズ比が高く、一方でアルコール中毒とは関連を認めなかった。		
結論： アメリカ先住民の文化やアイデンティティは、ギャンブル依存症とアルコール中毒の防御因子ではなかった。		